

<資料>

## 2014年における流通科学大生の喫煙行動

Smoking Behavior of UMDS Students in 2014

中島 孝子\*

Takako Nakashima

喫煙は多くの場合若年時に開始される習慣である。本論では、大学生の喫煙行動の実態調査を目的として流通科学大生を対象にアンケート調査を行った。喫煙経験率は全体で23.3%で、大学生を対象とした他の調査結果に比べ概ね低いか同程度である。家族に喫煙者がいる場合「父」がたばこを吸う割合が高い。家族に喫煙者がいないことと喫煙経験の有無は関連する。最初の1本を吸った時期として中学2、3年と高校以降の割合が高い。

キーワード：大学生、喫煙行動、喫煙経験率、最初の1本を吸った時期

### I. はじめに

喫煙という「習慣」の多くは若年時に開始される。蓑輪他<sup>1)</sup>によれば、喫煙という習慣を始めるかどうかは主として20歳代前半までの若年者の問題である。実際、中尾他<sup>2)</sup>は大学1、2年生を対象とする調査結果において、毎日たばこを吸うと回答した喫煙者のうち、18歳で習慣的喫煙を開始した者が最も多いことを報告している。また、漆坂他<sup>3)</sup>は大学学部生を対象とする調査結果において、喫煙者が初めてたばこを吸った年齢として、20歳の回答が最も多いことを報告している。

本論は流通科学大生を対象に実施されたアンケート調査の結果である。調査の目的は、喫煙経験の有無、最初の1本を吸った時期および現在の喫煙状況など、大学生の喫煙行動を調べることである。

以下に調査および分析結果を要約する。アンケートの回答者の平均年齢は19.4歳、喫煙経験者は全体で23.3%であり、これらの喫煙経験者が「最初の1本を吸った時期」は「中学2年」「中学3年」「高校以降」が最も多い。本調査における喫煙経験率は、2009～2013年における本学での調査結果<sup>4) 5) 6) 7) 8)</sup>（以下、2009年調査、2010年調査、2011年調査、2012年調査、2013年調査とする）より低い（2013年調査における女性の喫煙経験率を除く）。いくつかの項目を取り出して統計的検定をおこなった結果、(1) たばこを吸う家族がいるかどうかと、喫煙経験の有無とは統計的に有意な関連があった。(2) 喫煙経験者の現在の喫煙量と、最初の1本を吸った時期には統

\*流通科学大学総合政策学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町3-1

計的に有意な関連はみられなかった。

以下では、Ⅱ節でアンケート結果の概要を、Ⅲ節で分析および考察を、Ⅳ節でまとめを述べる。

## Ⅱ. アンケート結果

アンケートは、大学1、2年生を主な対象とする講義の受講者に対して、講義の初日（2014年4月）に匿名自記式質問紙調査によっておこなった。質問は全部で16問あり、喫煙経験ありの者と喫煙経験なしの者とで一部質問が異なる。アンケートの回答用紙を返却した人数は132人、うち120人分を有効回答としてデータの集計対象とした<sup>9)</sup>。

有効データ数120のうち、男性97人（80.8%）、女性23人（19.2%）である。回答者の平均年齢は19.4歳で、2013年調査（19.1歳）と同程度である。回答者を年齢別にみると、多い順に18歳（40.0%）、19歳（27.5%）、21歳（10.8%）、20歳（10.0%）である。

家族の喫煙状況について複数回答で質問した結果を表1にまとめた。家族の中では「父」が吸うと答えた者が最も多い。「父」が吸っている者の割合は、2013年調査の38.8%から37.5%にわずかに減少している。以下「母」、「兄」、「祖父」の順となる。家族は「誰も吸わない」と回答した者は全体の41.7%で、2013年調査よりも減少した。

表1. たばこを吸う家族（複数回答）

|        | 人数（2014） | 割合（2014, %） | 割合（2013, %） |
|--------|----------|-------------|-------------|
| 父      | 45       | 37.5        | 38.8        |
| 母      | 24       | 20.0        | 13.6        |
| 兄      | 10       | 8.3         | 12.6        |
| 祖父     | 8        | 6.7         | 9.7         |
| 祖母     | 2        | 1.7         | 3.9         |
| 姉      | 3        | 2.5         | 2.9         |
| 妹      | 3        | 2.5         | 0.0         |
| 弟      | 2        | 1.7         | 1.9         |
| その他    | 6        | 5.0         | 2.9         |
| 誰も吸わない | 50       | 41.7        | 48.5        |

表2. 喫煙経験者の人数と割合

|    | 人数（2014） | 割合（2014, %） | 割合（2013, %） |
|----|----------|-------------|-------------|
| 全体 | 28       | 23.3        | 33.0        |
| 男性 | 26       | 26.8        | 37.4        |
| 女性 | 2        | 8.7         | 0.0         |

喫煙経験者は全体の23.3%で、男女別の内訳は表2のとおりである。喫煙経験者とは、アンケート調査日までに1回でもたばこを吸ったことがある者である。回答者全体および男性の喫煙経験率

は 2013 年調査よりも減少した。一方、女性については、喫煙経験率はゼロから 8.7%に増加した。

喫煙経験者 28 名に対して、「最初の 1 本を吸った時期」について質問した。図 1 を見ると、最初の 1 本を吸った時期として、本調査で最も割合が高いのは「中学 2 年」「中学 3 年」および「高校以降」である（いずれも 17.9%）。「中学 1 年」の割合はゼロであった。「中学 2 年」以降、「高校 2 年」を底として、「高校 3 年」に初めて吸った者の割合が「高校 1 年」で初めて吸った者の割合まで増加する。2013 年調査と比較すると、「中学 3 年」、「高校 2 年」「高校 3 年」および「高校以降」で増加し、「小学生」「中学 1 年」、「高校 1 年」で減少している。2013 年調査と同様、小学校や中学校など比較的低年齢の時期に最初の 1 本を吸っている者が存在する。しかし、2013 年には「小学校」から「中学 3 年」までの間に 6 割以上が最初の 1 本を吸っているのに対し、本調査では 46.4%に低下している。

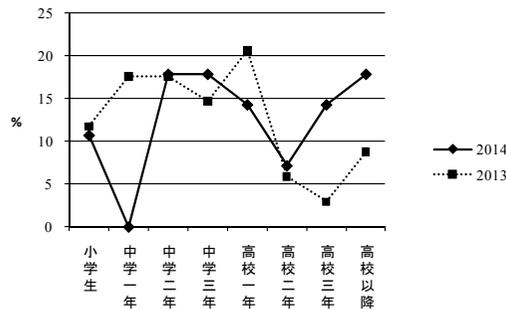


図 1. 最初の 1 本を吸った時期

表 3. これまで吸った本数の合計（喫煙経験者）

|            | 人数 (2014) | 割合 (2014, %) | 割合 (2013, %) |
|------------|-----------|--------------|--------------|
| 100 本を超える  | 14        | 50           | 70.6         |
| 100 本を超えない | 14        | 50           | 29.4         |
| 合計         | 28        | 100.0        | 100.0        |

表 4. 現在の喫煙量（喫煙経験者）

| 喫煙量                  | 人数 (2014) | 割合 (2014, %) | 割合 (2013, %) |
|----------------------|-----------|--------------|--------------|
| 1 1 日 21 本以上         | 0         | 0.0          | 11.8         |
| 2 1 日 11~20 本        | 6         | 21.4         | 35.3         |
| 3 1 日 1~10 本         | 6         | 21.4         | 17.6         |
| 4 週に数本程度             | 1         | 3.6          | 2.9          |
| 5 月に数本程度             | 1         | 3.6          | 0.0          |
| 6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ | 3         | 10.7         | 5.9          |
| 7 吸ったことがある程度で習慣ではない  | 11        | 39.3         | 26.5         |
| 合計                   | 28        | 100.0        | 100.0        |

喫煙経験者に対して、これまで吸った本数をあわせると100本を超えるかどうかを尋ねた。この質問は喫煙が習慣となっているかどうかの目安の一つとなる。これまで吸った本数が100本を超えている場合、現在または過去に喫煙が習慣となっている（いた）者といえる。表3をみると喫煙経験者の5割が「100本を超える」と答えた。この割合は2013年調査よりも低い。

同時に喫煙経験者に対して現在の喫煙量を尋ねた（表4）。最も多いのは、喫煙量が「吸ったことがある程度で習慣ではない」である（39.3%）。次に「1日11～20本」および「1日1～10本」（それぞれ21.4%）という回答が多く、続いて「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」（10.7%）という回答が多かった。毎日吸っている者は平均的に2日に1箱程度より少なく消費し、毎日喫煙している者（カテゴリー1～3）の喫煙経験者に占める割合は5割を超えない。喫煙量に関する傾向を2013年調査と比較すると、喫煙量が「1日11～20本」および「1日21本以上」である者の割合が減り、「1日1～10本」である者の割合が増加している。ただし、本調査における「1日21本以上」の割合はゼロである。さらに毎日喫煙している者（カテゴリー1～3）の割合が減少している。また、2013年調査よりも、「週に数本程度」「月に数本程度」「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」「吸ったことがある程度で習慣ではない」（カテゴリー4～7）の割合がいずれも増加している。

ここで、回答者を喫煙経験および喫煙量に応じて2タイプに分ける。1つ目は、喫煙量のカテゴリー1～6に含まれる者である。これを「喫煙者」と定義する。2つ目は、喫煙量のカテゴリー7に含まれる者および喫煙未経験者である。これを「非喫煙者」と定義する。

非喫煙者（合計103人）に対して、たばこを吸わない理由を複数回答で尋ねた。最も多いのが「健康のため」（71.8%）、次に多いのが「たばこが嫌い（におい、味）」（56.3%）という回答であった（表5）。2013年調査に比較して「たばこが嫌い（におい、味）」、「その他」の割合が増加し、他は減少している。

表5. 喫煙をしない理由（非喫煙者、複数回答）

| 喫煙をしない理由（複数回答）      | 人数（2014） | 割合（2014, %） | 割合（2013, %） |
|---------------------|----------|-------------|-------------|
| 健康のため               | 74       | 71.8        | 74.4        |
| たばこが嫌い（におい、味）       | 58       | 56.3        | 55.1        |
| たばこの値段が高い・お金がもったいない | 44       | 42.7        | 67.9        |
| 人の迷惑を考えて            | 21       | 20.4        | 29.5        |
| 機会がなかったから           | 12       | 11.7        | 12.8        |
| その他                 | 11       | 10.7        | 6.4         |

表 6. 5 年後の予想

|                 | 喫煙者       |              |              | 非喫煙者      |              |              |
|-----------------|-----------|--------------|--------------|-----------|--------------|--------------|
|                 | 人数 (2014) | 割合 (2014, %) | 割合 (2013, %) | 人数 (2014) | 割合 (2014, %) | 割合 (2013, %) |
| 5 年後にたばこを吸っている  | 11        | 64.7         | 56.0         | 2         | 1.9          | 0.0          |
| 5 年後にたばこを吸っていない | 6         | 35.3         | 44.0         | 101       | 98.1         | 100.0        |
| 合計              | 17        | 100.0        | 100.0        | 103       | 100.0        | 100.0        |

回答者全員に対して 2 つの質問をした。1 つは、「5 年後にたばこを吸っているかどうか」、2 つめは喫煙と健康に関する知識についての質問である。

表 6 より、喫煙者は、64.7%が 5 年後もたばこを吸っていると予想しているのに対し、非喫煙者は、98.1%が 5 年後もたばこを吸っていないだろうと予想している。2013 年調査と比較すると、5 年後も吸っていると予想している喫煙者の割合は増加した。

喫煙と健康に関する知識として、脳卒中、肺がん、食道がん、胃がん、心筋梗塞、膀胱がんの 6 種類の疾病を挙げ、その中で喫煙者の死亡確率が非喫煙者の 10 倍以上であるものを選ばせた。6 つの疾病のうち死亡確率に 10 倍の差があるのは肺がんと食道がんである<sup>10)</sup>。正しい選択肢を選んだ場合と正しくない選択肢を選ばなかった場合にそれぞれ 1 点を与え、最高得点を 6 点とした。全体で平均は 4.0 点である。得点分布は 5 点をピークとする分布となっている (表 7)。2013 年調査と比較すると、ピークが右に寄った分布となっている。

2010 年 10 月、たばこ消費税が増税された<sup>11)</sup>。増税に伴い、たばこ価格は値上げされ、銘柄にもよるがたばこ 1 箱あたり (20 本入り) で 300 円前後だったものが、およそ 400 円前後となった<sup>12) 13) 14)</sup>。この事実について知っているかどうか尋ねたところ、120 人の有効回答者のうち、「知っている」が 88 人、「知らない」が 32 人であり、7 割強の者がたばこ価格の値上げについて知っていた。

表 7. 喫煙と健康に関する知識の得点分布 (全員)

| 得点 | 人数 (2014) | 割合 (2014, %) | 割合 (2013, %) |
|----|-----------|--------------|--------------|
| 1  | 0         | 0.0          | 1.0          |
| 2  | 11        | 9.2          | 10.7         |
| 3  | 27        | 22.5         | 19.4         |
| 4  | 30        | 25.0         | 33.0         |
| 5  | 45        | 37.5         | 27.2         |
| 6  | 7         | 5.8          | 8.7          |
| 合計 | 120       | 100.0        | 100.0        |

表 8. たばこ価格が変化した場合の喫煙量（全員）

| 喫煙量                      | 人数                 |       |       |        | 割合 (%)             |       |       |        |
|--------------------------|--------------------|-------|-------|--------|--------------------|-------|-------|--------|
|                          | たばこ 1 箱 (20 本) の価格 |       |       |        | たばこ 1 箱 (20 本) の価格 |       |       |        |
|                          | 200 円              | 600 円 | 800 円 | 1000 円 | 200 円              | 600 円 | 800 円 | 1000 円 |
| 1 1 日 21 本以上             | 2                  | 0     | 1     | 0      | 1.7                | 0.0   | 0.8   | 0.0    |
| 2 1 日 11~20 本            | 7                  | 5     | 4     | 4      | 5.8                | 4.2   | 3.3   | 3.3    |
| 3 1 日 1~10 本             | 4                  | 4     | 3     | 2      | 3.3                | 3.3   | 2.5   | 1.7    |
| 4 週に数本程度                 | 2                  | 0     | 0     | 1      | 1.7                | 0.0   | 0.0   | 0.8    |
| 5 月に数本程度                 | 0                  | 0     | 0     | 0      | 0.0                | 0.0   | 0.0   | 0.0    |
| 6 毎日必ずではなく、<br>気が向いたときだけ | 6                  | 3     | 2     | 1      | 5.0                | 2.5   | 1.7   | 0.8    |
| 7 吸わない                   | 99                 | 108   | 110   | 112    | 82.5               | 90.0  | 91.7  | 93.3   |
| 合計                       | 120                | 120   | 120   | 120    | 100.0              | 100.0 | 100.0 | 100.0  |

最後に、仮想的な質問として、たばこ 1 箱 (20 本入り) の価格が 200 円、600 円、800 円、1000 円になった場合における喫煙量を回答者全員に尋ねた (表 8)。たばこ価格が低い場合 (1 箱 200 円) に比較して、600 円、800 円、1000 円と価格が上がっていくにつれて、「吸わない」(カテゴリ 7) と答える者が増加する。「1 日 11~20 本」「1 日 1~10 本」および「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」(カテゴリ 2、3、6) では、価格が上昇するにつれ、回答者数が減少するか横ばいとなる。「1 日 21 本以上」の回答者は、600 円でいったんゼロとなるが、800 円で増加し 1000 円で再びゼロになる。同様に、「週に数本程度」(カテゴリ 4) の回答者は 600 円と 800 円ではゼロであるが、1000 円で再び現れる。「月に数本程度」(カテゴリ 5) と答えた者は全ての価格でゼロであった。これらは、たばこ価格が仮に 1 箱 (20 本) あたり 1000 円まで上昇しても喫煙者はゼロにはならないが、価格の上昇が喫煙者の喫煙量を減少させる可能性があることを示唆している。

### Ⅲ. 分析および考察

#### 1. 喫煙経験と家族の喫煙状況

家族の喫煙状況を喫煙経験の有無別にみると、家族のうち「誰も吸わない」と答えた者の割合は喫煙未経験者のほうが高い。つまり、家族の喫煙状況について、喫煙経験の有無と関連があると考えられるのは、「誰も吸わない」という項目である。そこで、家族の喫煙状況について「誰かが吸う」か「誰も吸わない」かに注目し、表 1 と表 2 からクロス集計表を作成した (表 9)。

家族が「誰も吸わない」ほど喫煙経験がないと予想される。帰無仮説を「喫煙経験と家族に喫煙者がいるかどうかとは関連がない」として、独立性の検定をおこなった。その結果、帰無仮説は棄却され、喫煙経験の有無と家族に喫煙者がいるかどうかは関連しているといえる (カイ二乗検定、有意水準 0.05)。

表 9. 喫煙経験別のたばこを吸う家族（人）

|           | 喫煙経験あり | 喫煙経験なし | 合計  |
|-----------|--------|--------|-----|
| 家族の誰かが吸う  | 21     | 49     | 70  |
| 家族は誰も吸わない | 7      | 43     | 50  |
| 合計        | 28     | 92     | 120 |

## 2. 喫煙経験者における最初の 1 本を吸った時期と現在の喫煙量

ここでは、喫煙経験者を喫煙量に応じて 2 タイプに分ける。1 つ目は、喫煙量のカテゴリ 1～3 に含まれ、毎日喫煙している喫煙経験者である。これを「日常的な喫煙者」と定義する。2 つ目は、喫煙量のカテゴリ 4～7 に含まれ、たまに喫煙をする、または現在は喫煙をしない喫煙経験者である。これを「日常的でない喫煙者」と定義する。さらに、最初の 1 本を吸った時期を「小学校」「中学校」「高校」「高校以降」の 4 つに集約する。

日常的な喫煙者および日常的でない喫煙者それぞれについて、最初の 1 本を吸った時期を集計すると表 10 のようになる。

表 10. 最初の 1 本を吸った時期

| 最初の 1 本を吸った時期 | 2014       |              |            |              | 2013       |              |
|---------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|
|               | 日常的な喫煙者（人） | 日常的でない喫煙者（人） | 日常的な喫煙者（%） | 日常的でない喫煙者（%） | 日常的な喫煙者（%） | 日常的でない喫煙者（%） |
| 小学校           | 1          | 2            | 8.3        | 12.5         | 9.1        | 16.7         |
| 中学校           | 5          | 5            | 41.7       | 31.3         | 59.1       | 33.3         |
| 高校            | 5          | 5            | 41.7       | 31.3         | 22.7       | 41.7         |
| 高校以降          | 1          | 4            | 8.3        | 25.0         | 9.1        | 8.3          |
| 合計            | 12         | 16           | 100.0      | 100.0        | 100.0      | 100.0        |

本調査における 2 つのタイプの喫煙経験者を比較すると、日常的な喫煙者、日常的でない喫煙者ともに「中学校」「高校」で初めて吸ったことがある者が多い。ただし、「小学校」および「高校以降」に初めて吸った者の割合は日常的でない喫煙者のほうが高く、「中学校」「高校」で初めて吸ったものの割合は日常的な喫煙者のほうが多い。

このことについて、(1) 現在、日常的な喫煙者は主として中学、高校で吸い始めた、(2) 小学校で初めて吸った者については大学生の段階では喫煙が必ずしも日常的とならない、(3) 高校以降に吸い始めた者はまだ喫煙が日常的になっていない、と解釈できる。しかし、現在の喫煙量と最初の 1 本を吸った時期の関係について、独立性の検定を行ったところ、カイ二乗検定の結果、帰無仮説は棄却されなかった<sup>15)</sup>。すなわち、「日常的な喫煙者と日常的でない喫煙者のあいだで最初の 1 本を吸った時期が異なるとはいえない」という結論を得た（有意水準 0.05）。2013 年調査においても同様の結果が得られている。

一方、2013年調査と比較すると、日常的な喫煙者では「小学校」、「中学校」および「高校以降」で初めて吸った者が減少し、「高校」で初めて吸った者が増加した。日常的でない喫煙者では、「高校以降」で増加し、「小学校」、「中学校」および「高校」で減少した。

### 3. 喫煙と健康に関する知識

喫煙者と非喫煙者について、喫煙と健康に関する知識についての質問に対する得点の平均値はそれぞれ3.6点と4.2点である。得点の分布は図2のとおりである。喫煙者の得点分布は3点をピークとするのに対し、非喫煙者の得点分布は5点をピークとする。本調査における得点分布は、喫煙者については2013年調査とは異なり2峰型から単峰型に変化し、また、2013年よりピークにおける高さが高くなっている。非喫煙者については、2013年に比較してピークの位置が4点から5点に変化している。

一方、マークした病気の数を比較したところ、図3のような分布となった。マークした病気の数が多いほど、その回答者はより多くの病気が喫煙と関連すると考えていると推測される。本調査における喫煙者がマークした病気の数として、3個の割合が最も高く、平均は3.2個である。非喫煙者の場合は、マークした数が1個、3個および6個をピークとする分布となっており、平均は2.4個である。図3において本調査と2013年調査の分布を比較すると、2014年において喫煙者がマークした病気の個数の分布は、2013年調査の2峰型から単峰型に変化していることが観察される。非喫煙者の場合には2013年調査と比較して分布が左寄りとなっている。

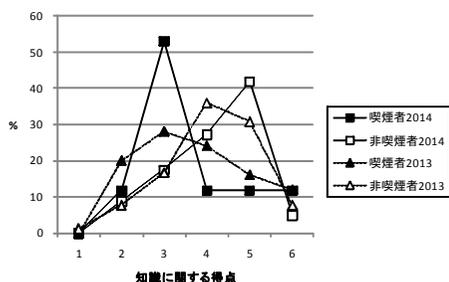


図2. 知識に関する得点分布（2014および2013）

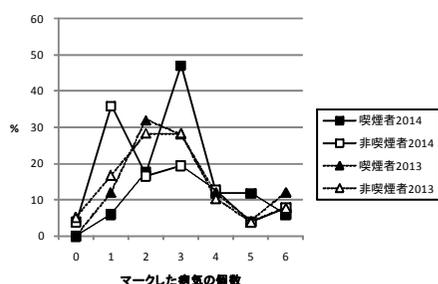


図3. マークした病気の数（2014および2013）

表11. 喫煙者の喫煙量と禁煙希望の有無（人）

| 喫煙量                  | 2014   |    | 2013 |    |
|----------------------|--------|----|------|----|
|                      | 禁煙希望あり | なし | あり   | なし |
| 1 1日21本以上            | 0      | 0  | 2    | 2  |
| 2 1日11~20本           | 1      | 5  | 10   | 2  |
| 3 1日1~10本            | 3      | 3  | 2    | 3  |
| 4 週に数本程度             | 1      | 0  | 1    | 0  |
| 5 月に数本程度             | 1      | 0  | 0    | 0  |
| 6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ | 2      | 1  | 1    | 1  |
| 合計                   | 8      | 9  | 16   | 8  |

#### 4. 喫煙者の喫煙量と禁煙希望の有無

喫煙者に対して、禁煙希望の有無を尋ねたところ、17人中8人が禁煙を希望し、9人は希望しないと答えた(表11)。2013年調査に比較して、全体に占める禁煙希望者数が減少した。また、「1日11~20本」吸う者について、2013年調査では禁煙希望ありがなしよりも人数が多かったが、本調査では逆転し、禁煙を希望しない者のほうが多い。

#### 5. 喫煙経験者：これまでの喫煙量が100本を超える者と超えない者の喫煙量

これまでの喫煙量が100本を超えているかどうかは、過去または現在における喫煙習慣の有無を判断する指標となる。表12を見ると、これまでの喫煙量が100本を超える者については、「1日11~20本」および「1日1~10本」吸っている者(カテゴリー2、3)が多く、合計で78.6%である。これらの者は現在においても喫煙が習慣となっていると考えられる。しかし、これまでの喫煙量が100本を超えていながら「週に数本程度」、「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」および「吸ったことがある程度で習慣ではない」と答えた者(カテゴリー4~7)については、かつては喫煙が習慣となっていたが、現在は喫煙をたまにしかしないか全くしなくなったと解釈できる。また、これまでの喫煙量が100本を超えていないにもかかわらず、「1日11~20本」吸っている者(カテゴリー2)の者は、吸い始めて間もないと解釈できる。

本調査と2013年調査とを比較すると、これまでの喫煙量が100本を超える者については、「1日1~10本」、「週に数本程度」および「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」(カテゴリー3、4、6)の割合が増加し、「1日21本以上」「1日11~20本」および「吸ったことがある程度で習慣ではない」(カテゴリー1、2、7)の割合が減少した。ただし、「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」(カテゴリー6)の者の割合が2014年で比較的割合が高い。これまでの喫煙量が100本を超えない者については、「1日11~20本」および「月に数本程度」(カテゴリー2、5)の割合が増加した。

表12. これまでの喫煙量が100本を超える者と超えない者の現在の喫煙量

| 喫煙量                  | これまでの喫煙量が100本を超える |             |             | これまでの喫煙量が100本を超えない |             |             |
|----------------------|-------------------|-------------|-------------|--------------------|-------------|-------------|
|                      | 人数(2014)          | 割合(2014, %) | 割合(2013, %) | 人数(2014)           | 割合(2014, %) | 割合(2013, %) |
| 1 1日21本以上            | 0                 | 0.0         | 16.7        | 0                  | 0.0         | 0.0         |
| 2 1日11本~20本          | 5                 | 35.7        | 50.0        | 1                  | 7.1         | 0.0         |
| 3 1日1~10本            | 6                 | 42.9        | 20.8        | 0                  | 0.0         | 10.0        |
| 4 週に数本程度             | 1                 | 7.1         | 4.2         | 0                  | 0.0         | 0.0         |
| 5 月に数本程度             | 0                 | 0.0         | 0.0         | 1                  | 7.1         | 0.0         |
| 6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ | 2                 | 14.3        | 4.2         | 1                  | 7.1         | 10.0        |
| 7 吸ったことがある程度で習慣ではない  | 0                 | 0.0         | 4.2         | 11                 | 78.6        | 80.0        |
| 合計                   | 14                | 100.0       | 100.0       | 14                 | 100.0       | 100.0       |

## 6. 仮想的なたばこ価格の変化と喫煙経験者の喫煙量

たばこ価格が変化すると仮定した場合の喫煙量を喫煙経験者について集計した（表 13）。回答者全体の場合と同様に、喫煙経験者についても、たばこ価格の上昇に伴い「吸わない」（カテゴリー7）という回答が増加する。カテゴリー7以外については、いずれも、価格の上昇に伴って回答者の割合は減少または横ばいとなる。

現在の喫煙量と比較すると、価格 200 円では「1 日 21 本以上」、「1 日 11～20 本」、「週に数本程度」および「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」（カテゴリー1、2、4、6）の割合が増加する一方、「1 日 1～10 本」「月に数本程度」および「吸わない」（カテゴリー3、5、7）の割合は減少する。

表 13. たばこ価格が変化した場合の喫煙量（喫煙経験者）

| 喫煙量                      | 人数                 |       |       |        | 割合 (%)             |       |       |        | 現在の喫煙量<br>(再掲) |
|--------------------------|--------------------|-------|-------|--------|--------------------|-------|-------|--------|----------------|
|                          | たばこ 1 箱 (20 本) の価格 |       |       |        | たばこ 1 箱 (20 本) の価格 |       |       |        |                |
|                          | 200 円              | 600 円 | 800 円 | 1000 円 | 200 円              | 600 円 | 800 円 | 1000 円 |                |
| 1 1 日 21 本以上             | 1                  | 0     | 0     | 0      | 3.6                | 0.0   | 0.0   | 0.0    | 0.0            |
| 2 1 日 11 本～20 本          | 7                  | 4     | 4     | 3      | 25.0               | 14.3  | 14.3  | 10.7   | 21.4           |
| 3 1 日 1～10 本             | 4                  | 4     | 3     | 2      | 14.3               | 14.3  | 10.7  | 7.1    | 21.4           |
| 4 週に数本程度                 | 2                  | 0     | 0     | 1      | 7.1                | 0.0   | 0.0   | 3.6    | 3.6            |
| 5 月に数本程度                 | 0                  | 0     | 0     | 0      | 0.0                | 0.0   | 0.0   | 0.0    | 3.6            |
| 6 毎日必ずではなく、<br>気が向いたときだけ | 4                  | 3     | 2     | 1      | 14.3               | 10.7  | 7.1   | 3.6    | 10.7           |
| 7 吸わない                   | 10                 | 17    | 19    | 21     | 35.7               | 60.7  | 67.9  | 75.0   | 39.3           |
| 合計                       | 28                 | 28    | 28    | 28     | 100.0              | 100.0 | 100.0 | 100.0  | 100.0          |

表 14. 喫煙経験率の比較

| 調査の種類       | 調査の時期       | データの属性         | 男性    | 女性    |
|-------------|-------------|----------------|-------|-------|
| 本調査         | 2014年4月     | 大学生（平均年齢19.4歳） | 26.8% | 8.7%  |
| 中島（2014）    | 2013年4月     | 大学生（平均年齢19.1歳） | 37.4% | 0%    |
| 中島（2013）    | 2012年4月     | 大学生（平均年齢19.1歳） | 27.4% | 9.3%  |
| 中島（2012）    | 2011年4月     | 大学生（平均年齢20.1歳） | 49.0% | 36.4% |
| 中島（2011）    | 2010年4月     | 大学生（平均年齢19.1歳） | 33.8% | 13.6% |
| 中島（2010）    | 2009年4月     | 大学生（平均年齢19.3歳） | 35.2% | 17.9% |
| 中尾他（2007）   | 2002年4～7月   | 大学生（平均年齢19.2歳） | 31.9% | 6.3%  |
| 新井他（2009）   | 2007年11～12月 | 大学生（1～4年生）     | 17.2% | 1.9%  |
| 石川・高橋（2011） | 2010年6～9月   | 大学生1年生         | 26%   | 11%   |
| 石川・高橋（2011） | 2010年6～9月   | 大学生2年生         | 37%   | 13%   |
| 石川・高橋（2011） | 2010年6～9月   | 大学生3年生         | 39%   | 14%   |
| 角田他（2011）   | 2009年10月    | 大学3年生（男子学生）    | 35.0% |       |
| 玉江（2014）    | 2011年12月    | 大学生            | 29.9% | 2.6%  |

## 7. 喫煙経験率の比較

本調査における喫煙経験率を男女別にみると男性 26.8%、女性 8.7%である。2013 年の女性の喫煙経験率を除き、男女別の喫煙経験率は 2009～2013 年調査における喫煙経験率と比較して低い（表 14）。本調査における喫煙経験率を、大学生を対象とする他の調査と比較する。本調査における男性の喫煙経験率は中尾他<sup>16)</sup>、角田他<sup>17)</sup> および玉江<sup>18)</sup> の調査結果よりも低く、新井他<sup>19)</sup> の調査結果よりも高い。他方、石川・高橋<sup>20)</sup> における大学生 1 年生の喫煙経験率とは同程度である。女性の喫煙経験率も同様の傾向を示すが、玉江<sup>21)</sup> の調査における女性の喫煙率より高い点が異なる。

また、本調査の喫煙経験率をみると、一部の例外はあるが、年齢が上がるほど、喫煙経験率も高くなる傾向を示している。このことは、学年が上がると喫煙者が増加する石川・高橋<sup>22)</sup> の調査結果と同様の傾向を示しており、大学入学後に喫煙を開始する者が存在することを示唆している。

## IV. まとめ

本論では流通科学大生を対象に実施したアンケート調査結果を述べている。調査の目的は、喫煙経験の有無、最初の 1 本を吸った時期および現在の喫煙状況など、大学生の喫煙行動の一端を調べることである。

結果は、以下のとおりである：(1) 喫煙経験率は全体で 23.3%であった。本調査における喫煙経験率は、本学における 2009～2013 年調査よりも概ね低い。(2) 回答者の家族に喫煙者がいる場合、「父」がたばこを吸う割合が最も高い (37.5%)。ただし、2013 年調査と同様、「父」がたばこを吸う割合は、家族が「誰も吸わない」割合 (41.7%) より低い。また、たばこを吸う家族がないことと、喫煙経験の有無とは統計的に有意な関連があった (有意水準 0.05)。(3) 最初の 1 本を吸った時期として最も多いのは「中学 2 年」、「中学 3 年」および「高校以降」である。次に「高校 1 年」および「高校 3 年」が多い。(4) 喫煙経験者の現在の喫煙量と、最初の 1 本を吸った時期には統計的に有意な関連はみられなかった (有意水準 0.05)。また、日常的な喫煙者は、「中学校」(41.7%) および「高校」(41.7%) で最初の 1 本を吸っている。同様に、日常的でない喫煙者も「中学校」(31.3%) および「高校」(31.3%) で最初の 1 本を吸っている者が多い。(5) 喫煙と健康に関する知識に関連して、喫煙者と非喫煙者を比較すると、得点およびマークした病気の数の分布は異なる。喫煙者の得点分布は 3 点をピークとするのに対し、非喫煙者は 5 点をピークとする得点分布を見せている。一方、喫煙者がマークした病気の数は 3、6 個をピークとする分布となっているが、非喫煙者の場合、1、3、6 個をピークとする分布を示した。(6) 喫煙者において、禁煙希望ありの者は禁煙希望なし者とほぼ同数であった。(7) これまでの喫煙本数の合計が 100 本を超えている者ほど、現在の喫煙量において毎日吸っている者が多い。(8) 2010 年秋のた

ばこ税増税に伴うたばこ価格値上げについて、7割以上の回答者が知っていると答えた(73.3%)。

(9) 回答者全員に、仮想的なたばこ価格における喫煙量を尋ねたところ、価格が上がるにつれて「毎日吸う」者の割合が減少し、「吸わない」者の割合が増加する。

喫煙という習慣を始めるかどうかは主として20歳代前半までの若年者の問題である。いくつかの文献<sup>23) 24) 25)</sup>において、大学入学以降の喫煙開始の抑止が問題を解決する手段の一つであることが示唆されている。仮想的な価格と喫煙量の関係を見ると、たばこ価格の値上げは、限界はあるものの、若年者の喫煙行動を変化させるのに効果があることが示唆される。若年者の喫煙行動を抑止することを目的としたたばこ税の増税が正当化される可能性がある。

今後、たばこの各銘柄ごとのイメージやニコチンやタールの含有量といった、たばこのさまざまな「属性」が若年者の喫煙行動に与える影響についても検討が必要である<sup>26)</sup>。

また、本調査と2013年調査と比較すると、本調査の喫煙経験率は男性で低く、女性で高くなった。今後も喫煙経験率に関する継続的なデータ収集および検討が必要である。

#### 謝辞

アンケートに協力してくださった学生のみなさん、および匿名の確認者のコメントに感謝いたします。もちろん、残る誤りは著者のものです。

#### 引用文献、注

- 1) 簗輪眞澄・尾崎米厚:「若年における喫煙開始がもたらす悪影響」『保健医療科学』54(4), 2005, 262-277.
- 2) 中尾理恵子・田原靖昭・石井伸子・門司和彦:「未成年期に喫煙開始した若者の喫煙に関する認識とニコチン依存度 — 大学生の質問紙調査から—」『保健学研究』20(1), 2007, 59-65.
- 3) 漆坂真弓・高梨信吾・阿部緑・工藤誓子・三国谷恵・中村邦彦:「弘前大学学部の喫煙状況と喫煙に対する意識調査」『日本禁煙学会雑誌』5(4), 2010, 111-119.
- 4) 中島孝子:「2009年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』18(2), 2010, 157-168.
- 5) 中島孝子:「2010年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』19(2), 2011, 121-133.
- 6) 中島孝子:「2011年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』20(2), 2012, 153-167.
- 7) 中島孝子:「2012年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』21(2), 2013, 151-164.
- 8) 中島孝子:「2013年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』22(2), 2014, 127-139.
- 9) 喫煙経験者であるのに、喫煙経験のない者を対象とする質問に回答があるなどのデータを無効とした。
- 10) 井伊雅子・大日康史:『医療サービス需要の経済分析』(日本経済新聞社, 2002)
- 11) 財務省「たばこ税等の税率及び税収」(URL: [http://www.mof.go.jp/tax\\_policy/summary/consumption/127.htm](http://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/consumption/127.htm),

- 2010 年 8 月 20 日取得)
- 12) All About ニュース「たばこ税増税 1 箱あたり 100 円以上の値上げへ」(2010 年 9 月 8 日)  
(URL: <http://focus.allabout.co.jp/gm/gc/290785/?from=dailynews.yahoo.co.jp>, 2013 年 8 月 31 日取得)
  - 13) 財務省「日本たばこ産業株式会社製紙巻たばこ等の小売定価変更の認可をしました」(2010 年 7 月 16 日)  
(URL: [http://www.mof.go.jp/tab\\_salt/topics/20100716\\_press.htm](http://www.mof.go.jp/tab_salt/topics/20100716_press.htm), 2013 年 8 月 31 日取得)
  - 14) 財務省「フィリップ・モリス社及びプリティッシュ・アメリカン・タバコ社製品の小売定価変更の認可をしました」(2010 年 8 月 6 日)  
(URL: [http://www.mof.go.jp/tab\\_salt/topics/20100806\\_press.htm](http://www.mof.go.jp/tab_salt/topics/20100806_press.htm), 2013 年 8 月 31 日取得)
  - 15) 帰無仮説は「日常的な喫煙者と日常的でない喫煙者で最初の 1 本を吸った時期は同じ」である。
  - 16) 中尾理恵子・田原靖昭・石井伸子・門司和彦:「未成年期に喫煙開始した若者の喫煙に関する認識とニコチン依存度 — 大学生の質問紙調査から—」『保健学研究』20 (1), 2007, 59-65.
  - 17) 角田英恵・桂敏樹・星野明子・臼井香苗.(2011). 「男子大学生の喫煙に関連する要因: 喫煙者と非喫煙者の比較から」『京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要: 健康科学: health science』7, 37-42.
  - 18) 玉江和義:「九州地区教員養成系大学学生における喫煙行動の実態およびその関連要因の探索的検討」『教育実践総合センター紀要』31, 2014, 209-218.
  - 19) 新井信成・上地勝・富樫泰一:「本学学生における喫煙行動および知識・態度に関する調査研究」『茨城大学教育学部紀要 (教育科学)』58, 2009, 423-438.
  - 20) 石川達也・高橋薫:「大学生の健康観: 喫煙およびムンプスに対する認識: 日本福祉大学 2010 年アンケート調査からの検討」『日本福祉大学社会福祉論集』124, 2011, 27-37.
  - 21) 玉江和義:「九州地区教員養成系大学学生における喫煙行動の実態およびその関連要因の探索的検討」『教育実践総合センター紀要』31, 2014, 209-218.
  - 22) 石川達也・高橋薫:「大学生の健康観: 喫煙およびムンプスに対する認識: 日本福祉大学 2010 年アンケート調査からの検討」『日本福祉大学社会福祉論集』124, 2011, 27-37.
  - 23) たとえば中尾他を参照 (中尾理恵子・田原靖昭・石井伸子・門司和彦:「未成年期に喫煙開始した若者の喫煙に関する認識とニコチン依存度 — 大学生の質問紙調査から—」『保健学研究』20 (1), 2007, 59-65)。
  - 24) 中井久美子・高橋裕子・清原康介・苗村郁郎・立身政信・寺尾英夫・吉原正治・杉田義郎・森山敏樹・鎌野寛・盛岡洋史・池谷直樹・辻井啓之・山形然太郎:「全国国立大学法人における喫煙対策調査 (2006 年度調査)」『禁煙科学』2 (4), 2008, 9-14.
  - 25) 中井久美子・高橋裕子・清原康介:「大学禁煙化プロジェクトにおける喫煙大学生への禁煙支援介入の成果」『禁煙科学』2 (4), 2008, 22-28.
  - 26) 匿名の確認者の指摘による。